

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-610	21-065	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and its association with chronic kidney disease: Evidence from a 12-year China health and Nutrition Survey アルコール摂取と慢性腎臓病との関連：12年間の中国健康栄養調査結果より		
執筆者		
Li Y, Zhu B, Song N, Shi Y, Fang Y, Ding X.		
掲載誌		
Nutr Metab Cardiovasc Dis. 2022 Jun;32(6):1392-1401. doi: 10.1016/j.numecd.2022.02.012.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、慢性腎臓病、eGFR、疫学		35304050
要旨		
<p>目的：アルコール摂取は、世界の健康に対する主な脅威である。本研究では、中国人集団におけるアルコール摂取と慢性腎臓病 (CKD)との関連を検討した。</p> <p>方法：1997年および2009年の中国健康栄養調査に参加した4664人(≥18歳)を本研究の対象とした。標準化された質問紙調査によりアルコール摂取状況を評価し、アルコールの種類(ビール/ワイン/蒸留酒)、飲酒レベル(非飲酒、少量、中等量、多量)、飲酒パターン(1997年・2009年の飲酒状況より①非飲酒⇒非飲酒、②非飲酒⇒飲酒、③飲酒⇒非飲酒、④飲酒⇒飲酒)により分類した。2009年に推定糸球体濾過量を評価し、60mL/min/1.73m²未満をCKDと定義した。ロジスティック回帰分析を用い、アルコール摂取状況によるCKD有病オッズ比(OR)および95%信頼区間(CI)を算出した。また、3次スプライン解析を用い、アルコール摂取量とCKD有病と用量反応関係を検討した。</p> <p>結果：ベースライン時(1997年)の飲酒者の割合は37.3%であり、飲酒者のうち86.1%は男性であった。2009年調査時のCKD有病率は14.5%であった。非飲酒者に比べ飲酒者はCKDの有病者が多く(11.0% vs 16.6%)、有病リスクが高かった(OR 0.76, 95%CI 0.58-1.00)。スプライン解析より、アルコール摂取量とCKD有病リスクとの関連はU字型であった。中等量飲酒者と比較し、多量飲酒者では有意にCKD有病リスクが高かった(OR 1.66, 95%CI 1.00-2.76)。全対象者の約1/4は飲酒パターンが変化しており、ベースライン時および12年後の2009年ともに飲酒者である男性は、CKD有病リスクが最も低かった(OR 0.48, 95%CI 0.31-0.73)。</p> <p>結論：アルコール摂取はCKD有病とU字型に関連した。中等量飲酒は非飲酒および多量飲酒に比べCKDリスクが低かった。今後、メカニズムの解明が必要であり、非飲酒者へ飲酒を推奨すべきではないと考えられる。</p>		